

平成 26 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■東根地区：7月10日（木）午後7時30分～9時 参加者数 61名

Q. 思川橋から荒砥に向かって上宿坂をあがったところから橋本たばこやさんのところまで電柱が4本あり、子どもたちは登校時に電柱をよけて車道のほうに出る。大型車やスピードを出した車が通行すると非常に危ないので、電柱の私有地への移設をお願いしたい。昨年、グリーンベルトについても要望したが、白線の横に黄色でも緑色でもいいので、運転手に歩行者を認識してもらうように線を引くことを検討いただきたい。

Q. 登下校で33人の児童が毎日通っているが、幅が狭く路側帯も狭い、下り坂でカーブになっている、見通しが悪いというところで、東根小学校の通学路の中で最も危険な場所である。一昨年、教育委員会と担当課と長井警察署に現場を見て検討していただき、道路に減速を促す表示をしていただいた。登下校の児童の列に車が突っ込むという事故が全国で起きているが、そのようなことが心配されるので、車道と路側帯、児童が歩いていることをしっかり認識してもらえようような対策をお願いしたい。

A. 町道荒砥浅立線のその箇所は、子どもたちの安全を確保しなければならないと関係者が立ち会って通学路の安全点検をしている。安全施設工事の予算で外側線の引き直しを検討している。グリーンベルトについては、幅が狭いことから手法を考えながら前向きに検討する。電柱については、道路改良工事に伴う移設ではなく官地から民地に移設すると全額の負担となり1本あたり50万以上の経費がかかるので、今後の課題である。

Q. 広野地区の国道から旧道に入るところの変形十字路に設置のカーブミラー、畔藤地区のスミヤ魚店から長谷川さん宅のところのT字路に設置のカーブミラーがずれている。写真を撮って町民課に届けたが対応されていない。事故が起きてからの対応では遅い。

A. さっそく担当で現地を確認して対応する。

Q. 第5次総合計画の後期の計画について、振興審議会に諮問しているとういことだが、前段で実施したアンケートの中で、4分の1ほどあった「暮らしにくい」との回答の理由は何か。

A. 「非常に暮らしにくい」「どちらかといえば暮らしにくい」との回答が全体の12%だった。理由としては、交通機関がほかの町に比べて不便などの理由が主なものだった。

Q. 公共交通機関であるフラワー長井線の利用が減ってきている。町としてもフラワー長井線については利用券購入で町民の皆さんの協力も得ながら運営しているが、沿線住民の足

だけでなく、高校生の利用を考えると大切な公共交通機関である。また、東回りの民間バスの運営もきびしいだろうと思うが、白鷹町と山形市を結ぶ大切な路線である。乗車率を上げることができるかどうか。「暮らしにくい」との素直な回答を大事にしてまちづくりに生かしていただきたい。

A. フラワー長井線については大変な赤字経営で、今後どうしていくかを真剣に考えなければならない。これ以上料金を上げれば利用者がいなくなる。置賜総合支庁でも各学校をまわって学生の利用をお願いしている。皆さんに利用していただくにはどうすればよいかを考えていかなければならない。

Q. コミュニティ化とはいったい何なのか。区長会等では議論されているようだが、一般市民の大部分はなんのことかさっぱりわからないと思う。

A. これまで町で運営してきた地区公民館を、地域の皆さんで地域の課題等を議論して計画・体制をつくっていただき運営していくのがコミュニティセンター化。他の地区でも、説明のたびにいろんな資料が出てくるし「わかりにくい」との声があったので、今後はわかりやすいパンフレット等を作成して説明に伺いたいと考えている。

Q. コミュニティセンター化まで、先ほどの説明でのスケジュールでは、あまり時間がないように思うが、東根地区に準備委員会というものはできているのか。

A. 先日、正副区長と地区の議員と公民館の運営委員が集まって運営委員会との合同会議を開いた。東根地区内のさまざまな組織の方に意見をききながらコミュニティ化について話あったらいいのではないかとということで、7月24日に集まる準備をしている。その中で意見を基に準備委員会を設立したいと考えている。

A. 地域で役員をお願いするのも四苦八苦している状態では地域力が相当低下していると認識せざるを得ない。地域の中で自分たちで後継者を育ててほしい。コミュニティセンター化はコスト削減のためではない。地域の皆さんが中心となって地区計画を立てて諸問題を考えて地域の皆さんが主役となって地域づくりを進めてほしい。

Q. 有事の場合の地区担当職員が配置されている。地域の中で頼れる職員がいるのは心強い。同じように、コミュニティセンター化についても地区担当職員を配置してもらい、コミュニティセンター化への進め方、その後の運営の指導、また一緒に地域づくりに参加してもらえる体制づくりをお願いしたい。

A. 地区に配置する担当職員については、勉強のために若い職員を配置するという方法もあるが、役場を退職した方をお願いし、職員時代に培った知恵を地域づくりにいかして

もらいたいと思っている。

Q. 昨年7月の豪雨で耳堂川に土砂が堆積して川底が上がって浅くなっていた。県管理の河川であり、今年の春に町から県に要請してもらって昨年堆積した土砂を6月に浚渫してもらった。昨日も大雨で消防団に土のうを積んだりしてもらい、決壊することはなかったが、浚渫していなかったら、もしかしたら決壊していたかもしれないので浚渫してもらって大変よかった。下流では山からの水を耳堂川でのみきれず、住宅の床下浸水の被害があったので、現地を見て検証しながら再度対策を講じていただきたい。

Q. 今日の説明をきいて、コミュニティ化の目的や役割が少しわかったが、ここに来てから資料を初めて見て頭の中でまとめるのに時間がかかった。できれば、今日の座談会の案内が回覧されたあたりに資料も配布してもらえればもっと理解できるのではないか。特に、第5次総合計画のこともあるので、資料の事前配布という方法も検討していただきたい。

A. コミュニティセンター化について、前もってわかりやすい資料を配るべきだったことは反省し、今後、話をする機会をいただければ担当職員が説明させていただく。

Q. 鷹山小学校が荒砥小学校に統合される説明があったが、鷹山小学校の跡地利用について、決まっていることがあるのなら教えていただきたい。

A. 同じく統合されて廃校になった中山小学校については福祉施設となった。鷹山小学校については、町としては教育施設として利用したいと考えてきたが、西置賜地域のはずれのほうにあるため、位置的に課題があり、教育施設的に活用するのはきびしくなった。バリアフリーなフロアがあり、ハンディキャップを持った方にも利用していただける校舎なので、やはり教育施設として利用できないかと働きかけているが、具体的にはまだはっきりとは決まっていない。